

[3_3]きゅうとNEWSLETTER

<https://hdl.handle.net/2324/1810675>

出版情報：きゅうとNEWSLETTER. 3 (3), pp.1-, 2008-10. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：





六本松

VOL. 3

NO.3

2008.10

六本松図書館では、

旧制福岡高校図書室時代から

現在の六本松図書館に

至るまでを振り返る企画展示会

「ありがとう六本松図書館」展

を行います。

皆様のお越しを

お待ちしております！



旧教養部分館(昭和53年)



六本松図書館(平成20年)

「ありがとう 六本松図書館」展

期間: 平成20年10月1日(水)～閉館まで(平成21年2月下旬予定)

会場: 六本松図書館ブラウジングルーム

CONTENTS

- つなぐ お世話になった六本松図書館
- 自著紹介
- 特集「ありがとう六本松図書館」

- NEWS
- どこでも📖 試行サービス開始
- 図書館員のおしゃべりコラム



「お世話になった六本松図書館」

人間環境学研究院准教授 竹熊尚夫

四半世紀前になる。学部一年生として九州大学に入学したばかりの私は、父が図書館職員(当時佐賀医科大)であったことから紹介を得て、教養課程の間、六本松図書館で夜間業務のアルバイトをすることになった。週3回程度の放課後の定期的なアルバイトであり、業務内容は、巡回、カウンターでの人数確認、貸出、返却業務だったように思う。入学したてで図書館でバイトなんて、同級生も不思議がっていた。おかげで部活は出来なかったが、私にとって図書館は好きな場所であり、落ち着く場所だった。初めて見るブラウジングルームはくつろげる場所であつたし、閲覧室にはどこに何が配架されているか分かるので、授業等で紹介された本を借りて読むこともできた。何といっても六本松は全学部に関わり、文理総合の基本的図書を所蔵していたので、そこで様々な本の存在を知り、本を開くことが出来たのはその後の自分の学際的な興味関心を側面からサポートしてくれたように思う。

図書館の良さはブラブラできることで、知識や人間としての著者との出会いがあることである。今は検索が主流だが、専門にあがる前の教養時代はコンパクトでいろんな本を見て回れる程度のスペースと選りすぐりの推薦図書が並ぶ六本松図書館は、人数や資源に制限はあったものの教養教育の一つの理念の具現化された場所だったと言っても良いかもしれない。

当時、バイトは二人一組で、素性はわからないままだった歯の少し欠けたおじいさんと法学部卒で司法試験の勉強中のFさんという方と組んでいた。夜間業務は時間に余裕があり、Fさんには法律の解説やテニスのお話で盛り上がり、民法や英語、テニスの本を頂いたり大変お世話になった。この方は後に県庁に就職していった。また、図書館の職員の方もよく残業されていて、お

裾分けをもらったりいろいろ親切にしてもらった。この頃は大学をはじめ図書館も、ゆったりとした時間を共有していたように思える。

自分のバイト中に何度も図書館に来る人の顔は覚えてしまう。何か知らないがよく勉強している人で、その日は体調が悪かったのだろう、一度玄関の外で戻してしまつて大変なことがあつた。怖い顔だったが何度も何度も謝られたのが忘れられない。その方は箱崎進学後も、大学院進学後も文系の廊下ですれ違った。やはり研究者になったのではないだろうか。よく本を借りに来る同級生は皆大学院に進んだ。

箱崎にあがつた後も時々六本松図書館にはお世話になった。そこにしか所蔵されていない文献があつたからである。時々には借りに行ったが、何となく恥ずかしいので大体は相互利用を活用させてもらった。

こんな訳で、六本松図書館にはお世話になりっぱなしだった。考えてみると図書館へのご恩返しとは何だろうか。それはやはり本を使うことらしい。保存すべき貴重図書やアーカイブスとは違い、ライブラリアンはたとえ盗まれるようなセキュリティ環境でも本が利用されることを望むと聞く。六本松図書館は伊都キャンパスへ移転するが、新キャンパスでは、研究室も狭くなる由、もっと足繁く図書館に通うことになるのだろうか。新しい図書館にはレファレンス業務や学生にとっての自習室、学習室としてばかりでなく、以前の学部図書室のように各学問分野の基本図書がすぐ手に取れ、かつ一方では様々な研究分野と出会う、視野を広めることのできる「ゆとりのある、心とらぐ、成長の場」となることを期待する。

自著紹介 本学教員より寄贈いただいた著作です。ぜひ読んでみてください



法学研究院 准教授 笠木 映里

「公的医療保険の給付範囲：比較法を手がかりとした基礎的考察」

笠木映里著

ISBN: 9784641143883

有斐閣 2008.3



本書は、公的医療保険の給付範囲という問題に法学的観点からのアプローチを試み、このテーマに関する議論の出発点となるような分析を行うことをめざすものである。具体的には、現物給付の医療保険制度を採用する日本で、給付範囲が、医師による診断や治療の事前・事後にわたる動的なプロセスの中で決定されていくという点に着目し、独仏比較法研究を素材として、日本において給付範囲の問題をいかなる観点から議論し考察すべきかについて検討を行っている。

[中央図書館・文系合同図書室・六本松分館に所蔵]

人間環境学研究院 准教授 小山 智幸

「資源循環再生学：資源枯渇の近未来への対応」

江藤次郎[ほか]著

ISBN: 9784765525138

技報堂出版 2008.3



文部科学省の支援で2003年にスタートした九州大学21世紀COEプログラム「循環型住空間システムの構築」において、著者らが構成するリサイクルチームでは、各種産業副産物の材料再生の技術、リサイクル不能な物質の廃棄物処理、環境維持に欠かせない水処理、廃棄物を生態系へ戻す生態系循環などの環境保全技術の構築を通じて、スループット方程式(スループット=生活の豊かさ×環境負荷)における環境負荷の低減によるスループットの増大を目的として研究を推進してきました。本書はその研究活動をとりとまとめたものです。

[中央図書館に所蔵]

このほか、以下の先生方より、著作をご寄贈いただきました。

法学研究院 准教授 岡崎 晴輝

「はじめて学ぶ政治学：古典・名著への誘い」

岡崎晴輝・木村俊道 編 ミネルヴァ書房 2008.3 [中央図書館・文系合同図書室]

NEWS

貴重文物講習会のご案内

九大図書館では、九大所蔵の貴重資料について認識を深めるため、「貴重文物講習会」を開催しています。ご興味のある教職員、大学院生のみなさま、ぜひご参加ください。

★参加申し込み

各開催日の3日前までに、附属図書館コンテンツ整備課電子化係(db@lib.kyushu-u.ac.jp)までお知らせください。

10-12月開催の貴重文物講習会

2008.10.24(金) 15:00-16:30 中央図書館新館4階 視聴覚ホールにて「九州大学とアートー過去から未来へー」 後小路雅弘(人文科学研究院教授)

2008.11.21(金) 15:00-16:30 箱崎理系地区 21世紀交流プラザII 講義室1「田村専一郎と支子(くちなし)文庫」 中野三敏(九州大学名誉教授)

2008.12.19(金) 15:00-16:30 芸術工学図書館にて「ロイドモーガン・コレクション」 片野 博(芸術工学研究院教授)

どうなる？伊都キャンパスの図書館②

今回は、全学教育講義棟の4階にできる学習・交流スペースのご紹介です。

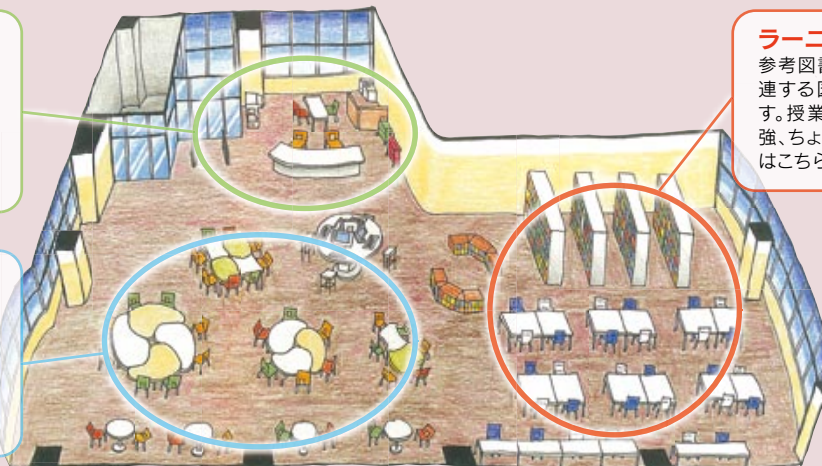
21年4月、全学教育学生が生活するセンター地区の全学教育南棟4階に、約200席の学習・交流スペースがオープンします。図書やパソコンが配されたこのスペースは、資料を利用する学習や、グループでの学習・情報交換に最適です。講義棟の中に位置していますので、授業の空き時間などに有効にご活用ください。

カウンター:

図書の借り出しや他キャンパスから取り寄せた図書がここで受け取れます。図書館スタッフも常駐しますので、図書館のサービスポイント、ヘルプデスクとしてご活用を。

コミュニケーションゾーン:

可動式のテーブル・椅子があります。グループでわいわい話しながら、情報交換したり学習したり、いろいろな用途どうぞ。



ラーニングゾーン:

参考図書や授業に密接に関連する図書が置かれています。授業の予復習や試験勉強、ちょっとした調べ物などはこちらでどうぞ。

-お知らせ-

増設工事に伴い運用を停止していました理系図書館の自動書庫、長らくご不便をおかけしましたが、10月より運用を再開しました。どうぞ、ご利用ください。

利用説明会(2008 年度 後期) 後期も様々なツールの利用説明会を行います。ぜひご参加ください。



10/20(月) 箱崎 13:00-14:30



10/21(火) 病院 9:30-10:30 大橋 13:00-14:00 筑紫 15:30-16:30
10/22(水) 箱崎 10:30-11:30 伊都 15:00-16:00



11/11(火) 大橋 入門10:30-11:30
病院・筑紫 入門13:30-14:30 応用14:50-15:50
11/12(水) 箱崎(文系)・六本松 入門10:30-11:30
箱崎(理系)・伊都 入門13:30-14:30 応用14:50-15:50



12/ 9(火) 病院 中上級10:30-12:00 筑紫 中上級14:50-16:20
12/10(水) 伊都 初 級13:00-14:30 中上級14:50-16:20
12/11(木) 箱崎 初 級13:00-14:30 中上級14:50-16:20



1/28(水) 箱崎 10:30-12:00 病院 14:50-16:20
1/29(木) 大橋 10:30-12:00 病院 14:50-16:20

詳細は、随時 図書館ウェブサイト>図書館ニュース【イベント・講習会】に掲載します。

お問い合わせ:附属図書館 eリソースサポート窓口
E-MAIL:esupport@lib.kyushu-u.ac.jp TEL:092-642-2336

六本松キャンパスの伊都地区への移転に伴って、附属図書館六本松分館もその歴史を閉じようとしている（移転スケジュールに変更があったため、来年3月をもってすべての機能が消滅するわけではない）。

現在の六本松分館の建物は、附属図書館教養部分館として1980年2月に竣工した。それまではどのような状況だったかといえば、実に1923（大正12）年に建てられた旧制福岡高等学校の図書館、および改造して閲覧室として利用された、同じく旧制福高の講堂が図書館として使われていたのである。両者とも木造の建物である。

もちろん木造だったからといって、不当に馬鹿にされるいわれはない。旧制福高の学生であった壇一雄や大西巨人の読書欲を満足させる内容ではなかったのかもしれないが、それらの建物は歴史の一部として認識されるべきものであろう。それと同時に、決して長いとはいえないその歴史の中でも、分館の内容が量的にも質的にも確実に変貌を遂げてきたことを、いまこの時にあたってあらためて確認しておきたいのである。

たとえば図書以外の資料として、古くは旧制福高の玉泉大梁教授によって収集された旧玉泉館収蔵資料がある。玉泉館の取り壊しに伴って1987年に教養部分館に収蔵されるようになったものである。所蔵資料中の古文書を使って、学生を対象に、経済学部の特選三教授、松下志朗教授による「古文書を読む会」が続けられたことも記憶されるべきであろう。加えて、教養部教授をつとめた檜垣元吉名誉教授の旧蔵資料である檜垣文庫が1988年に分館に寄贈された。約3万点の古文書を中心に、多岐にわたる内容を持つ貴重資料であり、近年はメディアからの掲載依頼も増えている。これらのうち考古資料は箱崎キャンパスの総合研究博物館に、古文書等は同じく記録資料館に移管される。いずれも今後のさらなる活用が期待されることである。

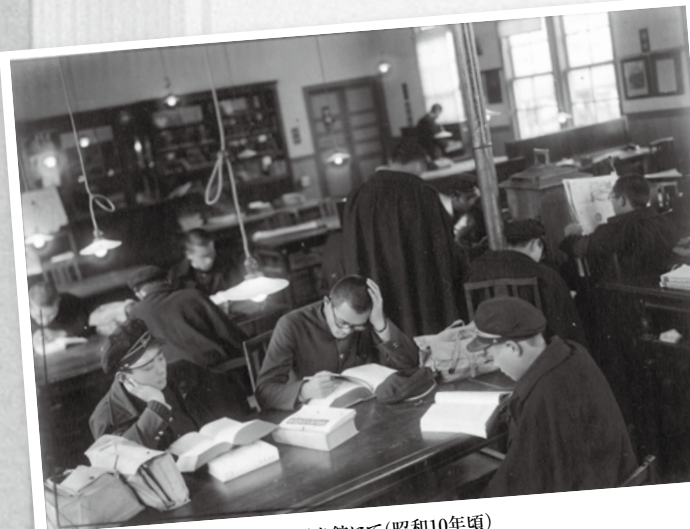
忘れてならないのは、1994（平成6）年に旧教養部が改組され、大学院比較社会文化研究院が設置されたことだ。この結果、六本松分館は大学院生および大学院教員の研究図書館としての機能をも担うことになった。意外に気づかれていないことだが、そのことは分館の内容に、かなり大きな変化をもたらしたはずである。

このように見てくると、いまその役割を終えようとしている六本松分館は、しかしまだその潜在能力が活用され尽くしてはいないことに気づく。これが発展的な解体であるためには、六本松分館が何であり、何であり得たかについて、私たちがあらためて思いをめぐらしてみる必要があるのではないか。

六本松分館って何だったんだろう？



六本松分館長
有馬 学



図書館にて(昭和10年頃)



玉泉館内展示(昭和48年)

50年前、旧教養部分館時代(昭和30年代)

延床(m ²)	
席数(席)	
蔵書数(冊)	6,000
うち 和書	4,000
うち 洋書	1,000
和雑誌(タイトル数)	
洋雑誌(タイトル数)	
開架率(%)	
入館者数	1,000
学生数	400

『日本の図書館』1959年度版

現在の六本松図書館(平成19年度)

延床(m ²)	5,000
席数(席)	100
蔵書数(冊)	45,000
うち 和書	31,000
うち 洋書	14,000
和雑誌(タイトル数)	2,000
洋雑誌(タイトル数)	1,000
開架率(%)	100
入館者数	21,000
学生数	1,000

ありがとう六

六本松図書館の歴史



閲覧室になった講堂(昭和54年)



昭和48年)

(昭和33年)

238

144

61,316

45,912

15,404

319

78

-

13,495

4,171

959年度調査より

平成19年)

5,155

728

458,207

311,247

146,960

2,864

1,702

99.0

210,095

5,207

貸出規則変更 (昭和41年)

“火・木・土曜日に1回2冊の図書を7日間”から
“1日1冊、期間8日間として毎日貸出可”に。

大坪町

この頃、教養部の住所は“大坪町(おおつぼまち)1丁目”だった。

(昭和42年に六本松1～4丁目に編入)

入館制限! (昭和42年)

私語・雑談で館内の静粛が乱されていたため、座席数(230席)を限度として入館者制限を実施。

静かにはなったが、入口には長蛇の列が。



地震被害(3階開架)(平成17年3月)

明治 44年 1月

大正 11年 4月

5月

昭和 5年 3月

22年10月

24年 7月

30年10月

32年12月

34年 3月

43年 6月

54年 4月

55年 4月

56年 4月

62年 9月

63年 4月

平成 5年 3月

6年 4月

9年 4月

12年 4月

15年 5月

10月

16年 4月

17年 3月

10月

21年 2月

福岡高等学校図書室 開設

玉泉館開設

九州大学第1分校図書室と改称

九州大学分校図書室(通称教養部図書室)と改称

「教養部図書室」を「教養部図書分館」に改称

九州大学附属図書館教養部分館を設置

旧図書館の解体、および新図書館の建築に着工
(その間、旧地学教室にて図書館業務を行なう)

新図書館にて教養部分館が開館(全館開架方式)

開館時間延長(平日20時、土曜日16時30分まで)

玉泉館解体、所蔵史料を教養部分館に移転

檜垣文庫の一般公開を実施

教養部分館を六本松分館と改称

休日開館(日曜日)開始

情報サロン開設(パソコン16台を設置)

開学記念施設開放「古文書・考古学資料の公開展示」

福岡県西方沖地震

閉館

本松図書館

大学のできごと

九州帝国大学 設置

旧制福岡高等学校 開校

九州帝国大学附属図書館設置

九州帝国大学が九州大学に改称

新制九州大学の設置
(旧制福高は九州大学第1分校となる)

九州大学分校の統合

ファントム機墜落
学生運動(～44年)

言語文化部設置

教養部廃止

大学院比較社会文化研究科設置

九州芸術工科大学と統合

国立大学法人化により、
国立大学法人九州大学となる

伊都地区開設

福岡高等学校
図書室開設
(大正11年4月)

九大の中で
2番目に古い歴史が
あるのです。

講堂を閲覧室に
(昭和37年)

書庫・閲覧室の増築を
行うも座席数が足りず、
講堂の床部分に机・椅子
を配置し閲覧室兼自
習室に転用。



新図書館外観(昭和55年4月)



新図書館ホール(昭和55年4月)



玉泉館解体(昭和62年10月14日)



ホール現在(平成20年)



外観現在(平成20年)



灰皿追放の歴史

新館オープン時＝ロビー（昭和55年）→喫煙室設置＆館内禁煙（平成7年）→喫煙室廃止（平成19年）



ロビー（昭和55年4月）



外観現在（平成20年）

玉泉館

玉泉館は九大教養部の前身である旧制福岡高等学校の教授、玉泉大梁氏の計画による歴史資料室。

昭和5年開設。考古学資料約6000点、古文書類約4000点などを収蔵した。昭和62年に解体され、収蔵品は六本松分館に移設された。

総合研究博物館へ移転（平成20年9月）



◀中国唐代騎馬俑



▲中国戯劇レコード

濱文庫

濱一衛名誉教授（教養部中国文学、元分館長）がフィールドワークの過程で蒐集した中国戯劇関係の和漢書をはじめ、戯曲関係のパンフレット、切り抜き、レコード、写真、濱先生自筆の隈取り図等も含む特色あるコレクション。

939点（約2500冊）

中央図書館へ移転（平成20年9月）



◀秀吉直筆の書

檜垣文庫

教養部で国史学を担当された檜垣元吉名誉教授の遺蔵資料。中世から近代にまで及ぶ約3万点の古文書を中心に、書画軸約300幅、和装本約2700冊、洋装本約2万冊、さらには美術品・民具500点、雑誌200種、合計約5万数千点に及ぶ、九州を中心とする歴史的総合資料群。

記録資料館へ移転（平成20年9月）

三上文庫

三上正利名誉教授（元分館長）の旧蔵書

日本、ロシア、ソ連、モンゴル、中国の地理、歴史、民族資料（855冊）

理系図書館へ移転（平成21年9月）

漫画

故日下翠教授（比較社会文化研究院）が漫画を本格的に研究しようと開いた「漫画学」講座の授業用資料（4684冊）理系図書館へ移転（平成21年3月）

◀研究資料としての漫画



六本松図書館のコレクション
本のほかにこんなものもあります

自宅、出張先からも電子ジャーナルにアクセスできます！

ど こ で も きゅうと

どこでも



試行サービス開始！

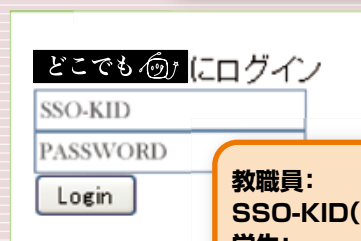
情報統括本部との連携により、eリソースを学外からでも閲覧できるサービス「どこでもきゅうと」の試行運用を開始しました。九州大学の構成員であれば、どなたでも利用することができます。



アクセス

図書館ウェブサイト>
学習・研究サポート[ラボ]>

どこでも



教職員:

SSO-KID(※1)/パスワード

学生:

学生番号に基づくID(※2)/パスワード

ログイン後、各データベースや電子ジャーナル集へのリンクをたどって利用することができます

(※1)情報統括本部が提供する九州大学全学共通ID

(※2)教育情報サービス(GraceMail等)を利用するためのID

利用できるeリソース たとえば…

□文献検索

- ・CiNii
- ・JDreamII
- ・Scopus
- ・PubMed

□電子ジャーナル

- ・きゅうとE-Journals
- ・メディカルオンライン
- ・ScienceDirect
- ・Nature
- ・Science

□調べもの

- ・JapanKnowledge
- ・日国オンライン
- ・理科年表プレミアム

※ログインして、使いたいeリソースがあるか確認してください

注意事項

- ・現時点では試行サービスのため、動作を完全に保証するものではありません。
- ・障害や機能改善のため、事前に通知なくサービスを停止することがあります。
- ・ユーザーID/パスワードの他者への貸与(漏えいを含む)、論文への大量アクセス・再配布は固く禁止します(利用者個人に責任を求める場合があります)。

ご意見ください 附属図書館 eリソースサポート窓口
E-MAIL: esupport@lib.kyushu-u.ac.jp TEL: 092-642-2336

図書館員の

おしゃべりコラム

普段と変わらない日常と、移転に向けての準備が少しずつ進む中で、何気なく目にとまる開館カレンダーが六本松を去る日を告げています。長年過ごした六本松キャンパスでの思い出は、綴じきれないアルバムのように、ページをめくると懐かしいシーンと心に行き交うさまざまな思いがよみがえります。

「お～！まだいたの？」と退官された先生方、「こんにちは！また来ました」と卒業された大学院生さん。まあ！お久しぶりですと、元氣そうなお顔に再び出会えて何度嬉しくなったことでしょう。就職間もない頃は、同年代の学生さんたちをカウンター越しに迎え、今はもう親子ほどの年齢差の学生さんたちに囲まれる日々。

私の好きなハワイアン・シンガーが書いた詩の中に、幼い頃過ごした祖母の家での思い出をつづった歌があります。

海のそばにあったその家。潮の匂いや花の香りが運ばれてくると、記憶がよみがえり、懐かしい風景と大切な思い出がそこにある。思い出たちは、自分のことをいつも穏やかな気持ちにしてくれる。しかし、思い出に浸ってばかりいるのではなく、前に向かって進みなさいといつも自分を励ましてくれる、という内容の詩です。

そろそろ準備にかかることにしましょうか。この六本松図書館で出会うことのできた皆さんへ、お世話になりました六本松キャンパスへ、さようならのかわりに、いただいたバラの花束の写真を。

感謝を込めて、マハロ マイ ロア！

(六本松図書館 M.W.)

